

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- ### ⑤プログラム構成科目

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「情報リテラシー」 ・Society 5.0、データ駆動型社会「情報リテラシー」
	1-6	・AI最新技術の活用例「情報リテラシー」 ・大規模言語モデル「情報リテラシー」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報リテラシー」 ・データ作成「情報リテラシー」 ・データのオープン化「情報リテラシー」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「情報リテラシー」 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援など「医療統計学」「生物統計学」
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ利用事例が示され、様々な適用領域 (流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等) の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、パターン発見など「医療統計学」「生物統計学」「応用解析学」「数学」 ・データ可視化: 2軸グラフ、関係性の可視化など「医療統計学」「生物統計学」 ・認識技術、ルールベース、自動化技術「情報リテラシー」 ・生成AIの活用「情報リテラシー」
	1-5	・データサイエンスのサイクル「医療統計学」 ・公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利用事例紹介「情報リテラシー」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等) を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題「医療倫理学」「生命倫理学」 ・個人情報保護、オプトアウト「医療倫理学」「生命倫理学」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「医療倫理学」「生命倫理学」 ・生成AIの留意事項「情報リテラシー」
	3-2	・匿名加工情報「医療倫理学」「生命倫理学」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー」 ・サイバーセキュリティ「情報リテラシー」
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類「医療統計学」 ・データの分布と代表値「医療統計学」「応用解析学」「生物統計学」 ・代表値の性質の違い「医療統計学」「生物統計学」 ・データのはらつき「医療統計学」「応用解析学」「生物統計学」 ・相関と因果「情報リテラシー」「医療統計学」「応用解析学」「生物統計学」
	2-2	・データ表現「医療統計学」「生物統計学」 ・データの比較「医療統計学」「応用解析学」「生物統計学」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「情報リテラシー」
	2-3	・データの取得「医療統計学」 ・データの集計「医療統計学」「応用解析学」 ・データの並び替え、ランキング「医療統計学」 ・データ解析ツール「医療統計学」 ・表形式のデータ「情報リテラシー」

⑦ プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)

データ分析や臨床研究の具体的な事例を通じて、医療現場での実践的な応用を理解し、新しい医療技術の開発に貢献できる素養を養う。また、データの適切な取り扱いや倫理・ルールについて学び、安全で信頼できる医療AIの活用方法を身につける。これにより、医療データの活用やAIの基礎を学び、診療や研究に応用する力を身につけ、将来的にデータを活用しながら医療を支え、より質の高い医療の提供に寄与できる。

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- ### ⑤プログラム構成科目

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「情報科学」 ・Society 5.0、データ駆動型社会「情報科学」
	1-6	・AI最新技術の活用例「情報科学」 ・大規模言語モデル「情報科学」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ「情報科学」 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報科学」 ・データ作成「情報科学」 ・データのオープン化「情報科学」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「情報科学」 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援など「情報科学」
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、パターン発見など「情報科学」 ・データ可視化: 2軸グラフ、関係性の可視化など「情報科学」 ・生成AIの活用「情報科学」
	1-5	・データサイエンスのサイクル「情報科学」 ・公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報科学」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題「生命倫理」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「生命倫理」 ・生成AIの留意事項「情報科学」
	3-2	・匿名加工情報「生命倫理」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報科学」
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類「情報科学」 ・データの分布と代表値「情報科学」 ・代表値の性質の違い「情報科学」 ・データのはらつき「情報科学」 ・相関と因果「情報科学」
	2-2	・データ表現「情報科学」 ・データの比較「情報科学」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「情報科学」
	2-3	・データの取得「情報科学」 ・データの集計「情報科学」 ・データの並び替え、ランキング「情報科学」 ・データ解析ツール「情報科学」 ・表形式のデータ「情報科学」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データ分析や臨床研究の具体的な事例を通じて、医療現場での実践的な応用を理解し、新しい医療技術の開発に貢献できる素養を養う。また、データの適切な取り扱いや倫理・ルールについて学び、安全で信頼できる医療AIの活用方法を身につける。これにより、医療データの活用やAIの基礎を学び、診療や研究に応用する力を身につけ、将来的にデータを活用しながら医療を支え、より質の高い医療の提供に寄与できる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	454	人
(非常勤)	4	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

4	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	天谷 文昌
(役職名)	教育センター長(副学長(教育担当))

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	数理・データサイエンス・AI教育検討委員会
------	-----------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	数理・データサイエンス・AI教育検討委員会運営要項
------	---------------------------

⑥ 体制の目的

数理・データサイエンス・AI教育検討委員会は、学生支援、厚生補導、学業・生活に関する事項及び教員教育に関する事項を審議する医学部教育委員会の専門委員会として位置づけられ、本学の数理・データサイエンス・AI教育を推進するための計画や改善を担う組織である。

本プログラムの自己点検・評価についても、履修者数や修了者数、科目評価を確認の上当該委員会が行い、医学部教育委員会や学内の関連委員会へ報告する。

⑦ 具体的な構成員

数理・データサイエンス・AI教育検討委員会

委員長 教育センター長(副学長(教育担当)) 天谷 文昌

委員 学生部長 八代 健太

委員 数学教室 教授 吉井 健悟

委員 人文・社会科学教室 教授 瀬戸山 晃一

委員 生物統計学教室 教授 手良向 聡

委員 外科学教室(乳腺外科学部門) 教授 直居 靖人

委員 精神医学教室 教授 成本 迅

委員 看護学講座 教授 森本 昌史

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	16%
令和8年度予定	32%
令和9年度予定	48%
令和10年度予定	64%
令和11年度予定	80%

具体的な計画

本プログラムを構成する医学科の授業科目はすべて履修必修科目であり、2025年度以降の医学科入学生は全員が対象科目を履修する。

看護学科についても、履修選択科目である情報科学について入学当初のオリエンテーションにおいて本プログラムの概要や獲得できるスキルについて説明の上、履修を強く勧奨している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する医学科の授業科目はすべて履修必修科目であり、2025年度以降の医学科入学生は全員が対象科目を履修する。

看護学科についても、履修選択科目である情報科学について入学当初のオリエンテーションにおいて本プログラムの概要や獲得できるスキルについて説明の上、履修を強く勧奨している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

大学ホームページにおいて、本プログラムの重要性や概要について掲載し、学生に周知している。また、新入生に対してオリエンテーションや講義の中で本プログラムの概要や獲得できるスキルについて説明し周知を図っている。

今後は修了者の実績や履修者のアンケート結果等をホームページなどで学内外に積極的に発信し、学生が積極的に取り組めるよう工夫を行う予定。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムを構成する医学科の授業科目はすべて履修必修科目であり、2025年度以降の医学科入学生は全員が対象科目を履修する。
看護学科についても、選択科目である情報科学について入学当初のオリエンテーションにおいて本プログラムの概要や獲得できるスキルについて説明の上、履修を強く勧奨している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

講義は原則対面で行っているため、学生が不明点等ある際は担当教員に直接質問することが可能である。また、各講義ともオフィス・アワーを設けるとともに、相談や質問がある場合の連絡手段もシラバスに明示している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 数理・データサイエンス・AI教育検討委員会

(責任者名) 天谷 文昌
(役職名) 教育センター長(副学長(教育担当))

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本学では、医学部医学科および看護学科を対象として、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養を身につける教育プログラムを実施している。医学科では「情報リテラシー」「生物統計学」「医療統計学」「生命倫理学」等を中心として、看護学科では「情報科学」「生命倫理」を通じて、データ活用やAIリテラシーに関する教育を展開している。授業内演習や課題等を通じて、基礎的知識および活用能力の修得状況を確認している。
学修成果		本プログラムでは、データサイエンスや生成AIに関する基礎知識に加え、医療現場におけるデータ活用、統計解析、情報倫理等について学ぶことで、医療DX時代に必要となる素養の修得を目指している。実践的な演習や事例紹介を通じて、学生が主体的にデータやAIを活用する能力を養っている。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		授業アンケートでは、「目標と内容」「明瞭な説明」「主体性」「満足度」等の項目において概ね高い評価が得られている。特に医学科「情報リテラシー」では、各項目がおおむね4点台前半～後半(5段階評価)であり、学生の理解度および満足度は良好であった。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		授業アンケートにおける満足度や主体性に関する評価結果から、本プログラムは学生に肯定的に受け止められていると考えられる。生成AIやデータ活用を実際に体験しながら学ぶ授業構成により、学習意欲の向上や他学生への推奨につながっている。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本学では、数理・データサイエンス・AI教育の全学的推進を進めている。医学科では既に履修を前提とした教育を実施しており、看護学科においても今後の履修必須化を視野に教育内容の整備を進めている。生成AI等の技術進展を踏まえながら、継続的な教育改善と履修率向上に取り組む予定である。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、医療現場や研究分野において必要となるデータ活用能力およびAIリテラシーの基礎形成を目的としている。将来的には、医療DXや臨床研究等に対応可能な人材育成につながることが期待される。今後は卒業生の進路や活躍状況等について継続的に把握し、教育改善に活用する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	近年の医療DX、生成AI、データ駆動型社会の進展に伴い、医療分野においてもAIリテラシーやデータ活用能力の重要性が高まっている。本プログラムでは、実践的なAI利用体験や情報倫理教育を取り入れ、社会的要請に対応した教育内容となるよう継続的な改善を進めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		生成AIを活用した演習や、医療データを題材とした実践的授業を通じて、学生が「AIを使う体験」を主体的に行える授業設計としている。医療現場や研究活動におけるデータサイエンス・AI活用事例を紹介することで、学ぶことの意義や将来的な活用可能性を理解できるよう工夫している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		授業アンケート結果や学生からの意見を踏まえ、教育内容・教材・演習方法の継続的改善を行っている。特に生成AI等の新技術を踏まえた教育内容の更新を進めるとともに、実際にAIを活用しながら学ぶ実践型授業を導入している。また、情報倫理、ELSI、AIの限界やハルシネーション等についても扱い、批判的思考力を育成する教育を実施している。

科目名	情報リテラシー (100213)			
科目責任者	吉井 健悟			
単位数	0.5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	前期・1学年	授業形態	実習	

教育の目的と方針

医学の実践の場において、情報を的確に活用する能力と、その背景になる考え方は、不可欠な基盤としてその重要性を増している。本講義では、安全で質の高い医学研究や医療の実践に必要な情報・科学技術の基本的な理論を理解し、それらを自身の学習や医学分野への応用に役立てる方法を学ぶ。

授業では、デジタル社会の基礎知識として位置づけられる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身につけることを目指す。また、情報や科学技術を利用する上で欠かせない倫理観とルールについても学ぶ。さらに、数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのかを解説し、医療分野におけるAI活用の具体的な事例も取り上げる。

到達目標

1. 授業、レポート作成、実験データの分析、発表など、今後の大学生活および将来の仕事に必須となるコンピューター操作ができる。
2. インターネットを利用する上でのモラルや危険性について理解し、自己学習や共同学習の場に適切なICTを活用できる。
3. データ駆動型社会とデータサイエンスについて理解し、説明できる。
4. 発展し続ける情報化社会の実態やAI等応用分野と社会との関わりを理解し、説明できる。

成績評価方法および基準

平常点(20%)と授業中に課される課題(80%)を総合的に評価する。

平常点は、授業でのコメントシートの作成やグループワークなどの学習への積極的な参加によって評価する。

事前・事後学習について

授業前に配布・指定された資料や教科書にしっかり目を通し、基本的な概念や用語を確認すること。また、事後学習では、授業で扱った内容を振り返り、指示された講義課題やレポート課題に取り組むこと。

教科書・参考文献等

各授業で用いる資料は、授業前にGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書：

北川源四郎／竹村彰通編集、内田誠一他著『教養としてのデータサイエンス』講談社(税込 1980円)

北川源四郎／竹村彰通編集、赤穂昭太郎他著『応用基礎としてのデータサイエンス』講談社(税込 2860円)

オフィス・アワー

講師 吉井健悟 月・金曜日 12:00-12:50 下鴨キャンパス 稲盛記念館 3F (基礎統計2)

備考：授業に関する質問はメールや Google Classroom のコメントで受けつけます。
 研究での対面での質問や相談の際は事前にメールで予約してください。
 連絡先のメールアドレスは授業の際に周知する。

学生へのメッセージ

情報リテラシーは、すべての授業を該当日の 13 時 20 分から、広小路キャンパスの地下情報科学実習室で行います。

実習での課題配付や提出には、Google Classroom を利用します。そのため、課題配付や提出には、大学のメールアドレスでのログインが必要となります。授業では、大学のメールアドレスとパスワードを忘れずに準備してください。

情報科学実習室では授業中を含め、いかなる場合でも飲食を厳禁とします。機器の故障や衛生面での問題が生じる可能性があるため、各自が責任を持ってルールを守ってください。水分補給などは、実習室から一旦退出し、飲食可能なスペースで行うこと。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/9	水	3・4	情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール、 ソーシャルメディアの利用 クラウドコンピューティング：グーグルフォームの活用、情報セキュリティ	吉井 健悟
2	4/16	水	3・4	データ駆動型社会とデータサイエンスの活用事例 分析設計：データ分析の進め方、仮説検証サイクル	吉井 健悟
3	4/23	水	3・4	AI の応用分野と社会との関わり 機械学習の基礎と展望：機械学習の基本的な概念と手法	吉井 健悟
4	5/7	水	3・4	深層学習の基礎と展望：実世界で進む深層学習の応用と革新 AI の構築と運用：AI 技術を活用したサービスやシステム構築	吉井 健悟

科目名	医療統計学 (277350)			
科目責任者	長崎生光 吉井健悟 田代啓 手良向聡 中田美津子 堀口剛			
単位数	2. 5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	5月～11月・5学年	授業形態	講義・実習	

教育の目的と方針

医療統計学は、統計学的推測等を用いて医学の問題を解決するための応用統計学である。そこには、研究をデザインし、医学データを適切に収集、入力、管理、解析し、得られた結果を解釈すること等が含まれている。

この講義と実習では、始めに3年次の生物統計学で理解した医学研究で広く使用されている各統計手法の基礎的原理の理解を深める。次に公表された臨床研究の具体的な事例を通して、結果の解釈、研究デザインなどについて学ぶ。また、これらの知識を踏まえて、実際の医学論文で最も広く実用されている医学統計ソフトウェアを使用し、目的に適合する統計解析手法を適切に選択して解析を実行する技術を演習して習得する。

講義、コンピューター実習（医学統計ソフトウェア SPSS ; IBM 社）

1 具体的な事例から観察研究・臨床試験について理解する

- (1) 観察研究・臨床試験論文を正しく読むことの重要性について理解する。
- (2) 研究目的に合ったデザインの選択について理解する。
- (3) 臨床試験におけるデザインの重要性およびデザインと統計解析の一貫性について理解する。
- (4) 観察研究における様々なバイアスとその対処法について理解する。
- (5) 医学研究における評価尺度の信頼性ならびに妥当性評価の概要について理解する。
- (6) 臨床研究結果の統合手法であるメタアナリシスの概要について理解する。
- (7) 医薬品等の費用と効果を統合的に評価する手法である費用効果分析の概要について理解する。
- (8) 診断法の統計的評価について理解する。

2 医学統計ソフトウェアを用いた統計解析手順について理解する。

- (1) 医学統計ソフトウェアの種類や解析手法についての概要を理解する。
- (2) データ入力、基本的な図示、記述統計量の処理操作を学ぶ。
- (3) データの分布と検定の処理操作を学ぶ。

なお、学生の理解度・進捗状況により、内容を一部変更することもあり得る。

到達目標

1. 学生は、医学統計ソフトウェア（SPSS ; IBM 社）を適切に利用して、目的に適合する統計解析手法を選択して解析を実行できる。
2. 学生は、公表された臨床研究の結果を批判的に評価できる。
3. 学生は、臨床研究（観察研究、臨床試験）のデザインと統計解析において考慮すべき点を理解し、説明できる。
4. 学生は、評価尺度の信頼性・妥当性について概要を説明できる。
5. 学生は、メタアナリシスについて概要を説明できる。

6. 学生は、費用効果分析について概要を説明できる。					
7. 学生は、診断法の統計的評価について概要を説明できる。					
成績評価方法および基準					
実習（長崎教授・吉井講師）は、平常点（20%）と実習課題（80%）を総合的に評価する。平常点は、授業中の演習への積極的な参加と取り組みに基づいて評価する。 講義（手良向教授・中田講師、堀口助教）は、最終講義で配付する確認テストの提出課題で評価する。 成績評価は、実習（長崎教授・吉井講師）70%、講義（手良向教授・中田講師、堀口助教）30%とし、総合点が60点に満たない者を不可とする。					
事前・事後学習について					
授業前に配布・指定された資料や教科書にしっかり目を通し、基本的な概念や用語を確認すること。また、事後学習では、授業で扱った内容を振り返り、指示された実習課題やレポート課題に取り組むこと。					
教科書・参考文献等					
Google Classroomにより、適宜資料を配布する。 参考文献：植田真一郎著『論文解釈のピットフォール(第1回)6/4/2009—(第26回) 5/16/2011 週刊医学界新聞』医学書院 マーチン・ブランド『EBM 実践のための統計学 Q&A』篠原出版新社 Keneeth J. Rothman『ロスマンの疫学』第2版、篠原出版新社					
オフィス・アワー					
講師 吉井健悟 月・金曜日 12:00-12:50 教授 手良向聡 月曜日 14:00-17:30 講師 中田美津子 水曜日 14:00-17:30 助教 堀口剛 月曜日 14:00-17:30 備考：授業に関する質問はメールやGoogle Classroomでのコメントで受付ます。 対面での質問や相談の際は事前にメールで予約してください。 連絡先のメールアドレスは授業の際に周知する。					
学生へのメッセージ					
講義と実習は基本的に配付資料に沿って進めるが、適宜、医療統計の入門的講義も行う。また、実習は広小路キャンパスの地下情報科学実習室（PC設置）、講義（7月23日4時限、7月30日3・4時限、10月8日4時限、10月22日3・4時限）は北臨床講義室で行う。 実習での課題配付や提出には、Google Classroomを利用します。そのため、大学のメールアドレスでのログインが必要となります。授業では、大学のメールアドレスとパスワードを忘れずに準備してください。 情報科学実習室では授業中を含め、いかなる場合でも飲食を厳禁とします。機器の故障や衛生面での問題が生じる可能性があるため、各自が責任を持ってルールを守ってください。水分補給などは、実習室から一旦退出し、飲食可能なスペースで行うこと。					

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員

1	6/25	水	3	統計解析ができる医師を育てる意義	田代 啓 長崎 生光 吉井 健悟
2	6/25	水	4	数値と記述統計量の報告	吉井 健悟 長崎 生光
3	6/25	水	5	データの分布と正規性の検証	吉井 健悟 長崎 生光
4	7/9	水	3	区間推定と要約統計量の報告	吉井 健悟 長崎 生光
5	7/9	水	4	データの分布と要約統計量の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟
6	7/16	水	3	仮説検定（１）仮説検定の手順	吉井 健悟 長崎 生光
7	7/16	水	4	仮説検定（２）第１種の過誤と第２種の過誤	吉井 健悟 長崎 生光
8	7/23	水	3	仮説検定（３）順位に基づいた検定	吉井 健悟 長崎 生光
9	7/23	水	4	評価尺度の信頼性と妥当性	中田 美津子
10	7/30	水	3	臨床試験デザイン（１）	堀口 剛
11	7/30	水	4	臨床試験デザイン（２）	堀口 剛
12	9/10	水	3	仮説検定の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟
13	9/10	水	4	相関と回帰（１）散布図と相関解析	吉井 健悟 長崎 生光
14	9/17	水	3	相関と回帰（２）回帰分析	吉井 健悟
15	9/17	水	4	相関解析と回帰分析の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟
16	10/1	水	3	重回帰分析	吉井 健悟
17	10/1	水	4	ロジスティック回帰分析	吉井 健悟 長崎 生光
18	10/8	水	3	生存時間解析	吉井 健悟
19	10/8	水	4	観察研究デザイン	中田 美津子
20	10/22	水	3	メタアナリシス・費用効果分析	中田 美津子
21	10/22	水	4	診断法の統計的評価（講義の確認テスト配布、提出期限・方法を提示）	手良向 聡
22	10/22	水	5	重回帰分析と生存時間解析の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟

4 医学基盤教育科目の内容紹介

科目名	生命倫理学 (100017)			
科目責任者	瀬戸山 晃一			
単位数	1. 4	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

本科目は、医学教育モデルコアカリキュラム及び本学のディプロマポリシー並びにカリキュラムポリシーにある「プロフェッショナリズム」すなわち生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら(中略)高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につける教育の根幹と基盤となる必修科目です。

本授業では、受講生は具体的な現代医療や医学研究をめぐる倫理的法的社会的問題(ELSI)を生命倫理学の基本原則と方法論から学びます。そもそも倫理学とは一体どのような学問分野であり、医歯薬学や理工学などの自然科学とどこか異なるのか、そして人文社会科学の中では、どのような位置づけになり、いかなる学術的意義や方法論を有しているのかについて理解します。生命倫理学は、文理融合的で学際的な学問領域であり、知識の獲得に講義の主眼を置くのではなく、有識者間においても意見が対立し唯一の正しい解答のない現代医療の倫理的諸問題を受講生が多角的でグローバルな視座から捉え、時間をかけて考え抜く知的枠組みと知的忍耐力を養うことを本講義の目的と方針とします。

なお、授業は講義とグループワークを組み合わせた形式で行います。取り上げる現代医療のテーマに関する様々なドキュメンタリー映像を視聴します。看護学科と合同のグループで意見交換やディスカッションを行います。毎回提出が義務づけられるフィードバック・コメントを活用し双方向的で主体的な学びをします。

到達目標

この授業では、将来、医療や医学研究に携わる皆さんが、なぜ今、医療や研究において生命倫理が問われているのか、患者の人権や自律の尊重がなぜ大切であるのかについて真剣に考え理解できる知的基盤づくりを行います。生命倫理の諸問題を取り上げ考察することで、異なる価値観を有する他者である患者さんやご家族などの当事者の気持ちを推論できる「共感性」を養い個人的な価値観を患者さんに押し付けることなく全人的医療を提供できる柔軟な思考と知的態度を養成することを教育の到達目標とします。具体的には、以下の知的能力を養うことを到達目標とします。

1. 医師や医学研究者になるものとして生命倫理を学ぶ意義(重要性)を理解し、それを言語化して説明できる。
2. 医療人としてのプロフェッショナリズムの意味を理解し、全人的な医療を実践する意義を説明できる。
3. 医療や臨床倫理における問題に気づき、倫理的感受性や患者や家族への共感性の必要性を理解し説明できる。
4. 現代医療の倫理的問題性について、生命倫理の基本原則の観点から理解し説明できる。
5. 患者の自己決定権を尊重しなければならない理由を具体的な例を挙げながら説明できる。

6. 医療情報を知る権利と知らないでいる権利の重要性を理解し説明できる。
7. パターナリズムの概念定義を正確に理解し、自律とパターナリズムの関係を適切に理解し説明できる。
8. 患者やご家族の意思決定支援のためにリバタリアン・パターナリズムとナッジの医療における重要性を理解し説明できる。
9. 国際的でグローバルな視点から多角的に現代医療における様々な生命倫理の諸問題（倫理的・法的社会的諸課題（ELSI））を捉え、その考察を論理的に述べることができる。
10. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性と意義を理解し説明できる。
11. 多様な価値観を有する個々の患者さんやご家族等へのケアや意思決定支援の在り方を主体的に考え説明できる。
12. 生命倫理の具体的諸問題の是非や諸論点について他の医学科生や看護学生とともに意見交換し、自分の意見を述べるができる。
13. 授業で扱う生命倫理の諸問題に対する問題意識を深め、得られた知的洞察を医療実践に活用できる柔軟な思考とそれを反映させた態度や行動を示すことができる。
14. 研究不正や不適切な研究活動が生じる諸要因（原因）を理解し、それらが生じないようにするための制度や方法について説明できる。
15. 予防倫理の限界と志向倫理の重要性について理解し説明できる。
16. 医学研究における利益相反（COI）の概念を理解し、そのマネジメントの意義（必要性）と限界を理解し説明できる。
17. ガイドライン（指針）と法的規制の違いを理解し、法規制の意義と限界や副作用について理解し説明できる。
18. 遺伝情報の非医学的利用の場面と遺伝情報のプライバシー保護の必要性について理解し説明できる。
19. 差別が生じる発生機序について説明できる。
20. 遺伝子差別禁止法の副作用（問題性）について理解し説明できる。

成績評価方法および基準

1 平常点（50％）

毎回、授業フィードバック・コメントの提出により出席確認を行う。遅刻時間数の合計が 45 分以上の場合には 1 回分の欠席としてカウントする。遅刻の合計が 90 分以上の場合には出席回数を 2 回分がマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。公共交通機関の遅延証明提出等がなく、授業開始時間から 10 分以上遅刻の場合や終了時刻 10 分以前の退出は出席と見なされない。平常点評価は、出席自体で点数は付与されず、毎回提出のフィードバック・コメントの内容を点数化し、それに授業態度を合わせて合計 50％を平常点とする。なお、授業中の私語や内職や居眠りなどは減点の対象とする。

2 筆記試験（50％）

筆記試験は、論述試験で全て参照物不可とし、毎回の授業をしっかりと聞いて考えていないと論述が難しい設問とする。

3 単位取得のために必要な 60 点以上の合格基準は、平常点と筆記試験を合算し、上記の到達目標での各項目の知識や知的洞察や能力を最低限必要なレベルまで理解し説明（言語化）できることを要する。

科目名	生物統計学		
科目責任者	手良向 聡		
単位数	0.8	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

生物統計学は、臨床・疫学研究の方法論の基礎となる学問である。臨床・疫学研究の計画・デザインの段階から統計解析・報告の段階まで、生物統計学の知識とその活用が必須となる。本講義では、数学的な厳密性を保ちつつ、実践における有用性を重視して、生物統計学に基づく科学（ヘルスデータサイエンス）の考え方を理解することを目的とする。

本講義は以下の内容を含む。

1 総論

医学・医療と技術評価、臨床・疫学研究における生物統計学の役割、臨床研究に関する法規・倫理指針、およびデータの質管理・質保証について理解する。

2 データ解析と結果の解釈

(1) データの記述

データを要約して記述する方法について理解する。

(2) 統計的推測

データ(標本)から集団に対して合理的な推測をする方法について理解する。

(3) 頻度流統計学

仮説検定の原理、割合の差の検定(カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定)、推定(信頼区間)の原理について理解する。

(4) ベイズ流統計学

ベイズ流統計学の基本的考え方、頻度流統計学との相違点について理解する。

(5) 2群比較、分散分析、一般線形モデル

2群の比較(t検定、ウィルコクソン検定)、分散分析、一般線形モデルについて理解する。

(6) 生存時間解析

生存時間の特徴、生存曲線の推定(カプラン・マイヤー法)、生存曲線の比較(ログランク検定)について理解する。

(7) 交絡バイアスとその調整

交絡の定義、交絡バイアスの調整(研究デザインによる調整、統計解析による調整)、交絡と交互作用の違いについて理解する。

(8) 多変量解析手法

代表的な多変量解析手法であるロジスティック回帰分析とコックス回帰分析について、結果の解釈を中心に理解する。

到達目標

- 1 学生は、データの適切な要約と視覚化の手法について説明できる。
- 2 学生は、頻度流の推測統計における検定と推定について説明できる。
- 3 学生は、頻度流統計学とベイズ流統計学の違いについて説明できる。

4 学生は、データに応じた検定手法(t検定、ウィルコクソン検定、分散分析、カイ二乗検定)を選択できる。 5 学生は、生存時間解析の基本的手法(カプラン・マイヤー法、ログランク検定)について説明できる。 6 学生は、一般線形回帰モデルならびに一般化線形回帰モデル(ロジスティック回帰、コックス回帰)の概要について説明できる。 7 学生は、交絡の定義とその調整方法について説明できる。			
成績評価方法および基準			
定期試験 80%、各講義中に実施する小テスト 20% 各項目の合計が 60%以上の場合に合格とし、その得点を科目評価とする。			
事前・事後学習について			
事前:これまでの受講内容の復習。 事後:配布資料を見直し、疑問点があればメール、オフィス・アワー等で解決する。			
教科書・参考文献等			
毎回、講義資料を配布する。 ・大橋靖雄編著. 医師のための臨床統計学 基礎編. 医歯薬出版株式会社(4,000 円). ・宮原英夫、折笠秀樹監訳. 実践医学統計学. 朝倉書店(4,600 円). ・手良向聡. なぜベイズを使わないのか!? 臨床試験デザインのために. 金芳堂(3,200 円).			
オフィス・アワー			
	オフィス・アワー		メールアドレス
手良向聡	月曜日	14:00～17:30	steramu@koto.kpu-m.ac.jp
中田美津子	水曜日	14:00～17:30	mnakata@koto.kpu-m.ac.jp
堀口剛	月曜日	14:00～17:30	go-h@koto.kpu-m.ac.jp
内藤あかり	火曜日	14:00～17:30	a-naito@koto.kpu-m.ac.jp
その他連絡先 生物統計学秘書 内線 5966			
学生へのメッセージ			
生物統計学の知識は、臨床研究を行う際のみならず、医学文献を正しく読み解くために必須である。本講義を通じて、学部生の段階で正しい統計学の知識を身につけることにより、将来臨床現場において、証拠に基づく医療を構成する証拠はどのような研究結果からもたらされたのか、批判的吟味が行えるようになることを目指す。			

授業日程

生物統計学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月7日(火)	3	臨床研究と生物統計学	生物統計学	手良向教授
10月7日(火)	4	データの記述と推測	〃	中田講師
10月14日(火)	3	頻度流統計学とベイズ流統計学	〃	堀口助教
10月14日(火)	4	2群の比較	〃	内藤助教
10月21日(火)	3	分散分析と一般線形モデル	〃	中田講師
10月21日(火)	4	交絡バイアスとその調整	〃	松山教授(非常勤講師)
11月4日(火)	3	生存時間解析	〃	内藤助教
11月4日(火)	4	ロジスティック回帰分析とコックス回帰分析	〃	手良向教授

科目名	数学（100225）		
科目責任者	長崎 生光		
単位数	2. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

数学は自然科学の基礎学問として、現代においても盛んに研究され医学を含めた様々な分野に応用されている。本講義では、高校までの数学の知識を基盤としながら、現代数学の基礎理論である微積分学、線形代数学（ベクトルと行列）を体系的に学習する。さらに数学の問題を解くことを通して、医学で必要となる数学の基礎知識や考え方を一つずつ積み上げ、身につけていく。また、身につけた知識を確認するための小テストや応用力をためす課題を解決することで、将来のあらゆる場で必要となる論理的な思考力や数理的な考察力を身につけることを目的とする。前半で微積分学を講義し、後半で線形代数学を講義する。

到達目標

- 1 微積分を理解し、自ら扱えるようになること。
 - (1) 微分，積分の定義を説明できる。
 - (2) 微分，積分の計算ができる。
 - (3) 偏微分，重積分の計算ができる。
 - (4) 極値問題が解くことができる。
 - (5) 重積分を用いて立体の体積の計算ができる。
- 2 線形代数を理解し、自ら扱えるようになること。
 - (1) 行列の和とスカラー倍，積の計算ができる。
 - (2) 行列式の定義が説明できる。
 - (3) 行列式の計算ができる。
 - (4) 行列の固有値と固有ベクトルが求められる。
 - (5) 行列の対角化ができる。

成績評価方法および基準

毎回の授業での小テストおよび課題の達成度を評価した平常点 (20%) 及び中間試験、定期試験の点数 (80%) で評価し、合計点が 60% に満たない者は不可とする。

事前・事後学習について

事前学習：事前に配布する授業スライドおよび教科書を予習する。

事後学習：授業内容に対応する教科書の問題を解く。

教科書・参考文献等

教科書：（前半用）三宅敏恒著『入門微分積分』培風館（¥1900 + 税）

（後半用）長崎生光監修，牛瀧文宏編『初歩からの線形代数』講談社（¥2200 + 税）

オフィス・アワー

担当 長崎 生光 メールアドレス：nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp

授業終了後またはメールにて質問・相談を受け付ける。

学生へのメッセージ

古代ギリシャのユークリッドは「幾何学に王道なし」と当時のエジプトのプトレマイオス王に言ったと伝わっている。数学という学問は、近道はなく、地道に努力し習得していくほかはないということである。しかし、一旦理解し身につけた知識は古くなることはなく普遍性をもつ。現代ではあらゆる分野で数学の知識が陰に陽に必要とされている。講義中心の授業ではあるが、各自が自発的に勉学に取り組むことを期待する。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/8	火	2	実数の集合と関数	長崎 生光
2	4/15	火	2	連続関数と微分可能関数	長崎 生光
3	4/22	火	2	高次導関数と平均値の定理	長崎 生光
4	5/13	火	2	不定積分の計算	長崎 生光
5	5/20	火	2	定積分の定義と広義積分	長崎 生光
6	5/27	火	2	2変数関数と偏微分	長崎 生光
7	6/3	火	2	全微分可能性と合成関数の偏微分	長崎 生光
8	6/10	火	2	2変数関数の極値問題	長崎 生光
9	6/17	火	2	重積分の定義と計算	長崎 生光
10	6/24	火	2	ヤコビアンと変数変換	長崎 生光
11	9/16	火	2	ベクトルと行列の演算	長崎 生光
12	9/17	水	3	正則行列とベクトルの1次独立性	長崎 生光
13	9/30	火	2	行列式の定義と性質	長崎 生光
14	10/7	火	2	行列式の計算と外積	長崎 生光
15	10/14	火	2	連立一次方程式の解法	長崎 生光
16	10/21	火	2	固有値と固有ベクトル	長崎 生光
17	11/11	火	2	行列の対角化	長崎 生光

科目名	応用解析学 (100234)		
科目責任者	長崎 生光		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

数学の理論は、医学も含めた様々な科学の分野で応用されている。特に種々の医学的な現象やデータを解析するためには、数理モデルや統計モデルなどを用いた数理的な考察が欠かせない。本講義では、医学を含む広範な分野で応用されている確率・統計や微分方程式の基礎理論と計算法を習得し、それらがどのように応用されているかを学ぶ。また、講義の理解度を確認するために、授業内の小テストや課題に取り組むことで数理的な手法・考察力を身につけることを目的とする。授業は2本立てで行われる。具体的には以下の通りである。

1 田代教授・吉井講師担当

教養と基礎医学の垂直統合で、医学で用いる解析方法を学ぶ。ゲノム解析においてコンピュータ上でアルゴリズムを組む場合の考え方を学ぶ。また、疾患遺伝子の「遺伝統計解析」や「ゲノムワイド関連解析」の原理や手法について学ぶ。

2 長崎教授担当

微積分の知識を活用し、関数のテイラー展開と基本的な常微分方程式の解法について学ぶ。応用として、生物の個体群のダイナミクス等を学ぶ。

到達目標

- 確率・統計を理解し自ら使えるようになること。
 - リスク比とオッズ比を計算できる。
 - 母平均の推定ができる。
 - 仮説検定の基本概念を理解し説明できる。
 - 遺伝情報と形質情報の関連を解析する手法を理解し説明できる。
- 級数と微分方程式の性質を理解し、自ら計算できること。
 - 関数のテイラー展開ができる。
 - 基本的な1階微分方程式を解くことができる。
 - 基本的な2階微分方程式を解くことができる。
 - 基本的な1階連立微分方程式を解くことができる。

成績評価方法および基準

毎回の授業で課される課題、レポートの提出状況や達成度による平常点(20%)，及び定期試験の点数(80%)で評価し、合計点が60%に満たない者は不可とする。

事前・事後学習について

事前学習：事前に配布する授業スライド，資料を予習する。

事後学習：授業内容のノート・資料を復習し，問題を解く。

教科書・参考文献等

教科書は特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考書：三宅敏恒著『入門微分積分』裳華房（¥1900 + 税）	
オフィス・アワー	
オフィスアワー	メールアドレス
・長崎教授	nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp
授業終了後またはメールにて質問・相談を受け付ける。	
・吉井講師	月・金曜日 12:00-12:50 yoshii-k@koto.kpu-m.ac.jp
場所 研究室(基礎統計学 2)	
学生へのメッセージ	
数学や統計が医学でどのように活かされているかを理解し、各自が自発的に勉学に取り組むことを期待する。	

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	9/24	水	3	数学・ゲノム医科学垂直統合講義の意義	田代啓・吉井健悟
2	9/29	月	1	記述統計学と推測統計学	田代啓・吉井健悟
3	10/1	水	3	関数のテイラー展開とその応用	長崎生光
4	10/6	月	1	統計的推定	田代啓・吉井健悟
5	10/8	水	3	1 階微分方程式とその応用	長崎生光
6	10/15	水	3	2 階線形微分方程式とその応用	長崎生光
7	10/20	月	1	仮説検定	田代啓・吉井健悟
8	10/22	水	3	連立 1 階微分方程式とその応用	長崎生光
9	10/27	月	1	遺伝情報と形質情報の関連解析	田代啓・吉井健悟
10	11/10	月	3	大規模データの分析方法とその医療応用	田代啓・吉井健悟

科目名	医療倫理学 (100010)			
科目責任者	瀬戸山 晃一			
単位数	1. 5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	集中講義・5 学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

本科目は、医学教育モデルコアカリキュラム及び本学のディプロマポリシー並びにカリキュラムポリシーにある「プロフェッショナリズム」すなわち生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら(中略)高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につける教育の根幹と基盤となる必修科目である。

皆さんは将来医師として臨床の現場で様々な倫理的な諸問題に直面することが不可避である。現在の医療現場では、多職種による倫理カンファレンスが急速に普及しつつある。そのような現状を踏まえて臨床倫理学会が 2012 年に設立され、臨床現場の医師や看護師などの医療従事者を中心とした学会員は、現在 2000 名以上に急速に増えてきている。「臨床倫理」は、医療実践の本質的な要素であるとの認識が広まりつつある。臨床における医療倫理的諸問題は、医療倫理の諸原則が相互に対立する倫理的ジレンマをはらんでいる場合がほとんどである。そこでは、明確で唯一絶対正しい答えが存在しないことが通例である。目の前にある事例が有する倫理的ジレンマに気づくことから始まり、それらを多様な視点から同僚医師や看護師その他の医療スタッフと共に向き合い考え、個別事例において患者本人とご家族にとって望ましい意思決定支援の在り方を模索していかなければならない。そのためには、倫理的ジレンマを同定する感受性の感度を高めておくとともに、チームで対話(議論)しながら倫理的価値観の対立する問題に対して考えていく知的忍耐力と実践的コミュニケーション能力が求められる。すなわち、知識の暗記では対応できない倫理的認知能力(感受性)と実践的な対応能力を養っていく必要がある。このような観点から本授業では、受講生の皆さんが、倫理的感受性とそれを行動に移し実践できる知的態度を涵養する「生きた教養＝高度教養教育」を目的としている。

また、臨床医においても治験や臨床研究に将来携わることが多くなってきている。研究指針改定と臨床研究法制定の主要要因となった研究不正事案であるディオバン事件の歴史を背負っている本学において、本学で学ぶ受講生は、研究不正が生じる原因や構造について理解し、不正を予防するための環境整備や、研究者個々人が有すべきプロフェッショナルな意識と規範遵守の態度の涵養が強く求められている。そのため本授業では、受講生は人を対象とした臨床研究における研究倫理の問題にも焦点を当て、研究公正における研究者マインドに必要な「志向倫理」的な態度の涵養の重要性について受講生に認識を深める。授業では受講生が臨床倫理の方法論などの臨床倫理の諸問題に向き合い取り組む上で必要になる知的枠組みについて理解し実践してもらう。

また学外の臨床倫理や研究倫理の専門家の先生を招聘し、講義と事例検討のワークを行います。臨床倫理で問題となる具体的な事例について、グループでの他の受講生との意見交換やディスカッションを行うことで、価値観が異なる他者の意見やその根拠に真剣に耳を傾け、自らの見解や考えを反省的に捉え相対化できる柔軟で多角的な思考マインドを養う。グループでの事例検討の発表も行ってもらおう。

到達目標

本授業では、将来、医師として医療に携わり、また医学研究者として臨床研究等に関わる諸君が本音と建前を分けることなく、なぜ今、医療現場や臨床研究において臨床倫理や研究倫理が問われているのか、そして患者さんやご家族、そして臨床研究の被験者の人権保護や自律の尊重ならびに倫理的配慮や意思決定支援がなぜ大切であるのかについて真剣に考え理解できる知的基盤の構築を目指します。これらの教育の狙いを達成するために、本授業では必要な背景的知識の提供や倫理的論点を明確にするための解説を行う。そして ZOOM のブレイクアウト機能を活用し、受講生をグループに分けて具体的な臨床倫理の事例について意見交換や議論をする参加型の授業形態を取入れる。受講生の積極的な授業参加とアクティブ・ラーニングが求められる。グループ・ディスカッションでは、臨床倫理や臨床研究の具体的な諸問題を取上げ、異なる価値観を有する他者である患者本人やご家族、被験者などの当事者の気持ちを推論し共感できる実践能力、個人的な価値観を押し付けることなく全人的医療をチームで提供できる能力の涵養、そして公正な研究に従事できる志向倫理的な態度を養成することを到達目標とします。具体的には、以下の知的能力を養うことを到達目標とします。具体的には、以下の知的能力を養うことを到達目標とします。

1. 医師や医学研究者として医療倫理や臨床倫理を学ぶ意義（重要性）を理解し、それを言語化して説明できる。
2. 医療人としてのプロフェッショナリズムの意味を理解し、倫理観をもって全人的な医療を実践できる。
3. 臨床倫理問題に気づき、倫理的感受性や患者や家族への共感性の必要性を理解し説明できる。
4. 現代医療の臨床上の倫理的問題について医療倫理の基本原則の観点から理解し説明できる。
5. 患者の自己決定権を尊重しなければならない理由を具体的な例を挙げながら説明できる。
6. 遺伝情報を知る権利と「知らないでいる権利」の重要性を理解し説明できる。
7. パターナリズムの概念定義を正確に理解し、医療における自律とパターナリズムの関係を適切に理解し説明できる。
8. 患者やご家族の意思決定支援のためにリバタリアン・パターナリズムが提唱するナッジの医療における重要性を理解し説明できる。
9. 国際的でグローバルな視点から多角的に現代医療における様々な生命医科学技術の発展に伴う倫理的法的社会的諸課題（ELSI）を捉え、それを考察し説明できる。
10. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性と意義を理解し説明できる。
11. 多様な価値観を有する個々の患者さんやご家族等へのケアや意思決定支援の在り方を主体的に考え説明できる。
12. 医療倫理の具体的諸問題の是非や諸論点について他の医学科生とともに意見交換し、自分の意見を述べるができる。
13. 授業で扱う臨床倫理の諸問題に対する問題意識を深めるのみならず臨床倫理の方法論である 4 分割法その他を使って事例を分析し活用できる。
14. 本学が当事者となったディオバン事案の概要とそれが生じた原因について理解し説明できるとともに研究不正や不適切な研究活動が生じる諸要因（原因）を理解し、その後に制定された臨床研究法の内容を理解し、それらが生じないようにするための制度や方法について説明できる。
15. 予防倫理の限界と志向倫理の重要性について理解し説明できる。
16. 医学研究における利益相反（COI）の概念を理解し、そのマネジメントの意義（必要性）と限界を理解し説明できる。
17. ガイドライン（指針）と法的規制の違いを理解し、法規制の意義と限界や副作用について理解し説明できる。
18. 遺伝情報の非医学的利用の場面と遺伝情報のプライバシー保護の必要性について理解し説明で

きる。

19. 差別、特に遺伝子差別が生じる発生機序について説明できる。

20. 遺伝子差別禁止法の副作用（問題性）について理解し説明できる。

成績評価方法および基準

成績評価は、平常点と筆記試験等を総合的に判断して行う。

1 平常点（50％）：毎回の出欠確認並びに課題である授業フィードバック・コメントの提出を合わせて出席確認とする。遅刻や早退の時間の合計が45分以上の場合には1回分の欠席としてカウントする。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。

授業開始時刻10分以上遅刻の場合や終了時刻10分以前の退出は出席と見なされない。

毎回提出フィードバック・コメントの内容は評価対象とし、授業中の私語や内職や居眠りや正当な理由なくZOOM画面のオフなどは減点の対象とする。

2 筆記試験（50％）：試験は、論述試験で全て参照物不可とし、毎回の授業に積極的に参加していなければ論述が難しい設問とする予定である。

3 単位取得のために必要な60点以上の合格基準は、平常点と筆記試験を合算し、上記の到達目標での各項目の知識や知的洞察や能力を最低限必要なレベルまで理解し説明（言語化）できることを要する。

事前・事後学習について

初回授業には、必ずシラバスをしっかりと読んで授業に臨んでください。次回の授業内容に該当するテキストの章や配布資料に目を通してくること。フィードバック・コメントシートに毎回授業の出席を通し新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問の主なものに答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。

教科書・参考文献等

【必携テキスト】宮坂道夫『原則と対話で解決に導く医療倫理学』（医学書院 2024 年 ISBN 978-4-260-05757-8、3,190 円（本体 2,900 円+税））

【参考文献】箕岡真子『臨床倫理入門～ケースから学ぶ臨床倫理～』（日本臨床倫理会編集、へるす出版 2017 年）、箕岡真子『エンド・オブ・ライフケアの臨床倫理』（日総研出版、2020 年）、宮坂道夫『医療倫理学の方法：原則・ナラティブ・手順（3 版）』（医学書院 2016 年）、清水哲郎・会田薫子・田代志門編『臨床倫理の考え方と実践』（東京大学出版会 2022 年）、その他の参考文献等は講義中に紹介し、参考資料は適宜配布する。

オフィス・アワー

授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントシートに記入し提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、授業の際に周知する教員のメールアドレスにアポイントメントの予約のメールを送り調整の上で個別に対応する。大学管理職で会議や委員会が多いため、特定の曜日・時間帯の設定はできない。

学生へのメッセージ

障害や持病など、健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談すること。

ZOOM で授業参加中は、カメラをオンにして、マイクをミュートに設定し、出欠確認のためチャット機能で授業の初めと終わりに氏名と番号を入力し送信すること。移動中の授業参加は認めない。ネット環境の整備をしておくこと。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/10/17	金	2	医療倫理の基本原則と自由制約の四原理（パターンナリズム）（対面下鴨）	瀬戸山 晃一
2	2025/10/17	金	3	事例検討：医療情報の開示と予後告知、胃瘻の事例（対面下鴨）	瀬戸山 晃一
3	2025/10/20	月	1	臨床倫理の方法論：4 分割法、ナラティブ・アプローチ他（zoom）	瀬戸山 晃一
4	2025/10/20	月	2	患者の意思決定支援とアドバンスケア・プランニング（ACP）（zoom）	瀬戸山 晃一
5	2025/10/21	火	3	臨床倫理と 4 分割法（zoom）（ゲスト教授①）	瀬戸山 晃一 / 平山陽示
6	2025/10/21	火	4	宗教上の信条による輸血拒否グループによる事例検討と発表（zoom）（ゲスト教授①）	瀬戸山 晃一 / 平山陽示
7	2025/10/23	木	1	遺伝情報のプライバシーと遺伝子差別（zoom）	瀬戸山 晃一
8	2025/10/23	木	2	医学研究不正と研究倫理：不正のトライアングル・利益相反（zoom）	瀬戸山 晃一
9	2025/10/24	金	1	グループでの事例検討と発表（ゲスト教授②）（zoom）	瀬戸山 晃一 / 片倉啓雄
10	2025/10/24	金	2	プロフェッショナリズムと研究倫理（ゲスト教授②）（zoom）	瀬戸山 晃一 / 片倉啓雄
11	2025/11/7	金	2	受講生の質問へのフィードバック（zoom）	瀬戸山 晃一
12	2025/11/7	金	3	授業全体の振り返りとまとめと筆記試験について（zoom）	瀬戸山 晃一
補講	2025/11/14	金	1	休講があった場合（zoom）	瀬戸山 晃一
補講	2025/11/14	金	2	休講があった場合（zoom）	瀬戸山 晃一

担当教員 ▲瀬戸山晃一

単位数 2単位

必修・選択区分 必修、選択

授業形態 講義

開講時期・学年 前期 1年

学部・学科 医学部 看護学科

授業概要

本講義では、受講生は具体的な現代医療をめぐる倫理的法的社会的問題（ELSI）を生命倫理学の基本原則と方法論から学びます。

そもそも倫理学とは一体どのような学問分野であり、医歯薬学や理工学などの自然科学とどこか異なるのか、そして人文社会科学の中では、どのような位置づけになり、いかなる学術的意義や方法論を有しているのかについて理解します。

生命倫理は、文理融合的で学際的な学問領域であり、知識の獲得のみに講義の主眼を置くのではなく、有識者間においても意見が対立し唯一の正しい解答のない、現代医療の倫理的諸問題に対して多角的でグローバルな視座から捉え、時間をかけて考え抜く知的枠組みと知的忍耐力を受講生が養うことを本講義の目的と方針とします。

なお、授業は講義とグループワークを組み合わせた形式で行う。取り上げる現代医療のテーマに関する様々なドキュメンタリー映像を視聴します。

11講までは医学科と合同のグループで意見交換やディスカッションを行います。

毎回提出が義務づけられるフィードバック・コメントを活用し双方向的で主体的な学びをして頂きます。

現代医療をめぐる生命倫理や医療倫理・臨床倫理が問題となる具体的な事例を考えます。

ビデオ視聴や医学科の受講生とのディスカッションを通し、受講生の倫理問題に気づく感受性を涵養します。

到達目標

1. 看護師や助産師や保健師になるものとして生命倫理を学ぶ意義（重要性）を理解し、それを言語化して説明できる。
2. 医療人としてのプロフェッショナリズムの意味を理解し、倫理観をもって全人的な看護を実践する素養を身につける。
3. 医療や臨床倫理における問題に気づき、倫理的感受性や患者や家族への共感性の必要性を理解し説明できる。
4. 現代医療の倫理的問題性について、生命倫理の基本原則の観点から理解し説明できる。
5. 患者の自己決定権を尊重しなければならない理由を具体的な例を挙げながら説明できる。
6. 医療情報を知る権利と知らないでいる権利の重要性を理解し説明できる。
7. パターナリズムの概念定義を正確に理解し、自律とパターナリズムの関係を適切に理解し説明できる。
8. リバタリアン・パターナリズムとナッジの医療における重要性を理解し説明できる。
9. 国際的でグローバルな視点から多角的に現代医療における様々な生命倫理の諸問題（倫理的法的社会的諸課題（ELSI））を捉え、それを考察できる。
10. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性と意義を理解し説明できる。
11. 多様な価値観を有する個々の患者さんやご家族等へのケアや意思決定支援の在り方を主体的に考え説明できる。
12. 生命倫理の具体的諸問題の是非や諸論点について他の看護学生や医学科生とともに意見交換し、自分の意見を述べるができる。
13. 授業で扱う生命倫理の諸問題に対する問題意識を深め、得られた知的洞察を医療実践に活用できる柔軟な思考と態度を身につける。
14. 研究不正や不適切な研究活動が生じる諸要因（原因）を理解し、それらが生じないようにするための制度や方法について説明できる。
15. 予防倫理の限界と志向倫理の重要性について理解し説明できる。
16. 利益相反（COI）の概念を理解し、そのマネジメントの意義（必要性）と限界を理解し説明できる。
17. ガイドライン（指針）と法的規制の違いを理解し、法規制の意義と限界や副作用について理解し説明できる。
18. 遺伝情報の非医学的利用の場面と遺伝情報のプライバシー保護の必要性について理解し説明できる。
19. 差別が生じる発生機序について説明できる
20. 遺伝子差別禁止法の副作用（問題性）について説明できる。

ディプロマポリシーとの関連

DPとの関連:強く関連するDP(①)、関連するDP(②④)

時間数

30時間

授業内容

回数	日付	内容	準備学習
第1回	2025/04/14(月)	授業ガイダンス（受講上の注意や留意点） 受験勉強と大学での学習の違い 大学での授業に臨むにあたって必要な姿勢 生命科学と人文社会科学の違い 生命倫理の4つの基本原則 自己決定（自由）制約の4原理	テキストを購入し、テキスト第1章とシラバスを読んで授業に出席すること。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第2回	2025/04/21(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 癌の告知の裁判事例 インフォームド・コンセントとパターンナリズム 自己決定と知る権利の重要性	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第3回	2025/04/28(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 遺伝子診断と遺伝学的情報の開示 「知る権利」と「知らないでいる権利」	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第4回	2025/05/12(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 民間の体質遺伝子検査ビジネス（DTC）と遺伝学的情報のプライバシー	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第5回	2025/05/19(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 ゲノム医療推進法 遺伝情報の非医学的利用と雇用や生命保険における遺伝子差別 遺伝子格差社会と生物的不平等	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第6回	2025/05/26(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 着床前診断と胚選別 デザイナーベビー（救世主兄弟） 耳の不自由なカップルの事例	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第7回	2025/06/02(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 新型出生前診断と選択的堕胎 障害者と優生思想 強制的不妊問題	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第8回	2025/06/09(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 臨床倫理の方法論、 人工生命維持装置停止・治療中止、胃ろう：消極的安楽死、 アドバンスケアプランニング（ACP）	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第9回	2025/06/16(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 自殺援助と積極的安楽死、 裁判事例 尊厳死：尊厳ある死を選ぶ権利	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第10回	2025/06/23(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 臓器移植と臓器売買 医療ツーリズムと闇市場	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。

回数	日付	内容	準備学習
第11回	2025/06/30(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 研究不正と研究倫理 隠れたカリキュラムと逸脱の標準化（ゆでがえる理論） 予防倫理と志向倫理 利益相反（COI）	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第12回	2025/07/07(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 精子や卵子や凍結受精卵売買 代理出産をめぐる問題 子の福祉と出自を知る権利	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第13回	2025/07/14(月)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 重度障害新生児の治療停止	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第14回	2025/07/22(火)	前回授業の提出フィードバックコメントにおける受講生の質問等への補足説明。 赤ちゃんポストと内密出産と子の福祉	講義回のテーマに関する指定テキストの該当章と授業での配布資料等に目を通して授業に臨むこと。 授業でよく理解できなかったところは、テキストや配布スライドや資料を再度読んで復習しておくこと。
第15回	2025/07/28(月)	前回授業課題の提出フィードバックコメントにおける質問等への補足説明。 授業全体の質問を受ける。 全体のまとめと筆記試験について説明する。	これまでの講義全体を振り返り、十分理解できていないことなど、質問事項を考えてくる。

教科書

霜田求（編）『テキストブック生命倫理（第2版）』（法律文化社2022年、2300円+税）

参考文献

講義において適宜指示する。また参考資料を配布する。

評価方法・成績評価基準

毎回の授業の最後に提出するフィードバックコメントにおける授業内容理解度や知的洞察の獲得度合いや問題意識の深化度を平常点50%として評価する。それに筆記試験50%の総合評価を行い、単位認定に必要な評価基準は60点を合格点とする。

上記、到達目標で挙げた20項目の理解度や能力を高度のレベルではないが、最低限度理解し説明（言語化）できることとする。

なお授業中の私語や内職や居眠りなどは減点の対象とする。

オフィスアワー

研究室が下鴨キャンパスにあり、質問等はコメントシートに記入提出し、次回授業で説明する。

面談希望の場合はメールでアポイントをとり個別に対応する。

備考

授業開始時刻より10分以上の遅刻や終了時刻10分以前の退席は欠席扱いとする。

遅刻や離席等の合計が60分を超える場合に1回の欠席扱いとする。

筆記試験を評価し単位認定のためには、15回中10回以上の出席を必要とする。

担当教員	新子広美 吉井健悟
単位数	2単位
必修・選択区分	必修、選択
授業形態	講義・実習
開講時期・学年	前期 1年
学部・学科	医学部 看護学科

授業概要

A技術の発展に伴い、データ処理や意思決定のプロセスには大きな変革がもたらされており、その中で必要なリテラシーやスキルも変容している。この授業ではデジタル社会の基礎知識として位置づけられる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身につけることを目指す。また、現代社会に則した安全なデータ管理や運用、SNS活用を学ぶとともに、Word・Excel・PPを用いた文書作成・データ分析・プレゼンテーションの実践スキルを向上させる。さらに、統計処理手法を学びデータの特性や関連性を見出す力を養うとともに、Google Meetを活用した遠隔地との円滑なオンラインコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

以下の到達目標を設定する

1. 法的に安全な情報管理と利活用、SNSのメリットとデメリットを理解した上での運用ができる
2. Word：図表を用いた文書と論文やレポートなど長文が効率よく作成できる
3. Excel：関数の利用・データ集計と分析、視覚的表現・データベース活用ができる
4. PP：訴求力のあるスライド作成とプレゼンテーションができる
5. 統計処理を行いデータの特徴や関連性を適切に解釈できる
6. Google Meetを利用したオンラインコミュニケーションができる
7. データ駆動型社会とデータサイエンスについて理解し、説明できる。
8. 発展し続ける情報化社会の実態やAI等応用分野と社会との関わりを理解し、説明できる。

ディプロマポリシーとの関連

強く関連（DP2）

- ①情報セキュリティの学習を通じて患者情報の適切な管理や安全なデータ運用の重要性を理解し、エビデンスに基づく看護実践を支える情報リテラシーの活用に繋がる。
- ②MS-Officeツールの活用は、看護記録の作成・データ分析・プレゼンテーションによる情報共有を支援し、科学的根拠に基づいた判断能力の向上に貢献する。
- ③Google Meetを活用したオンラインコミュニケーション能力の向上は、医療チーム間の連携の強化に繋がる。

時間数

授業内容

回数	日付	内容	準備学習
第1回	2025/04/10(木)	<授業概要と情報セキュリティ> ・情報セキュリティとモラル（SNS活用のメリットデメリット） ・AI最新技術の活用例 ・Google meetの活用（リモートミーティング）	事前：SNS活用時のモラルについて考えておく 事後：情報の管理と安全な運用を見直す
第2回	2025/04/17(木)	<情報検索法> ・文献検索とデータ検索（オープンデータの活用）	事前：興味のある分野を考えておく 事後：文献やデータの検索に慣れる
第3回	2025/05/08(木)	<Word 1> 文書作成の基本と文書体裁（各種書式設定）	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする

回数	日付	内容	準備学習
第4回	2025/05/15(木)	<Word 2> 表・図形・画像の扱い	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
	2025/05/15(木)	<Word 3> 論文やレポート作成などの長文作成ツール ・脚注（文末脚注） ・目次 ・図表番号 ・文献の管理と引用文献の挿入	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
第6回	2025/05/29(木)	<Excel 1> 表計算の基本 ・四則演算 ・基礎関数 ・ワークシート操作 ・数値の書式	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
	2025/06/05(木)	<Excel 2> 応用関数とデータの視覚化 ・関数 ・各種グラフの設定と応用	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
第8回	2025/06/12(木)	<Excel 3> クロス集計とソート・抽出 ・テーブルの設定と活用 ・ピボットテーブル	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
	2025/06/19(木)	<Excel 4> 分析ツールを用いた統計処理 ・基本統計量 ・ヒストグラム ・箱ひげ図	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
第10回	2025/06/19(木)	<Excel 5> 分析ツールを用いた統計処理 ・散布図 ・相関（相関係数の算出）	事前：PCでの入力練習をしておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
第11回	2025/06/26(木)	<PowerPoint 1> スライドの作成と編集 ・スライドレイアウト ・スライドデザイン ・アニメーション ・画面切替効果	事前：テーマに沿った情報を収集しておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
	2025/07/03(木)	<PowerPoint 2> データ連携とリンク設定 ・他アプリとのデータ連携 ・画像や動画を取り入れる ・スライドファイルの取込 ・リンク設定	事前：前回学んだ内容を見直しておく 事後：練習問題を用いて操作の見直しをする
第13回	2025/07/03(木)	<PowerPoint 3> プレゼンテーション法 ・プレゼンのマナーとテクニック ・リハーサル機能	事前：前回学んだ内容を見直しておく 事後：発表スライドの作成に取り組む
	2025/07/10(木)	<データ駆動型社会とデータサイエンスの活用事例> ・HSIを活用した地域評価の事例紹介	事前：前回学んだ内容を見直しておく 事後：講義内容の復習
第15回	2025/07/17(木)	<ビックデータの活用領域> ・公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例 紹介	事前：前回学んだ内容を見直しておく 事後：講義内容の復習

教科書

杉本くみ子、大澤栄子, 30時間アカデミック Office2019, 実教出版

参考文献

授業内で適時提示

評価方法・成績評価基準

- ①授業態度・授業への取組（授業内の課題提出・小テスト・ディスカッション時の発言など）：50%
- ②定期試験：50%

①+②で100%とし、60%以上で合格とする。

詳細は授業内で提示する

オフィスアワー

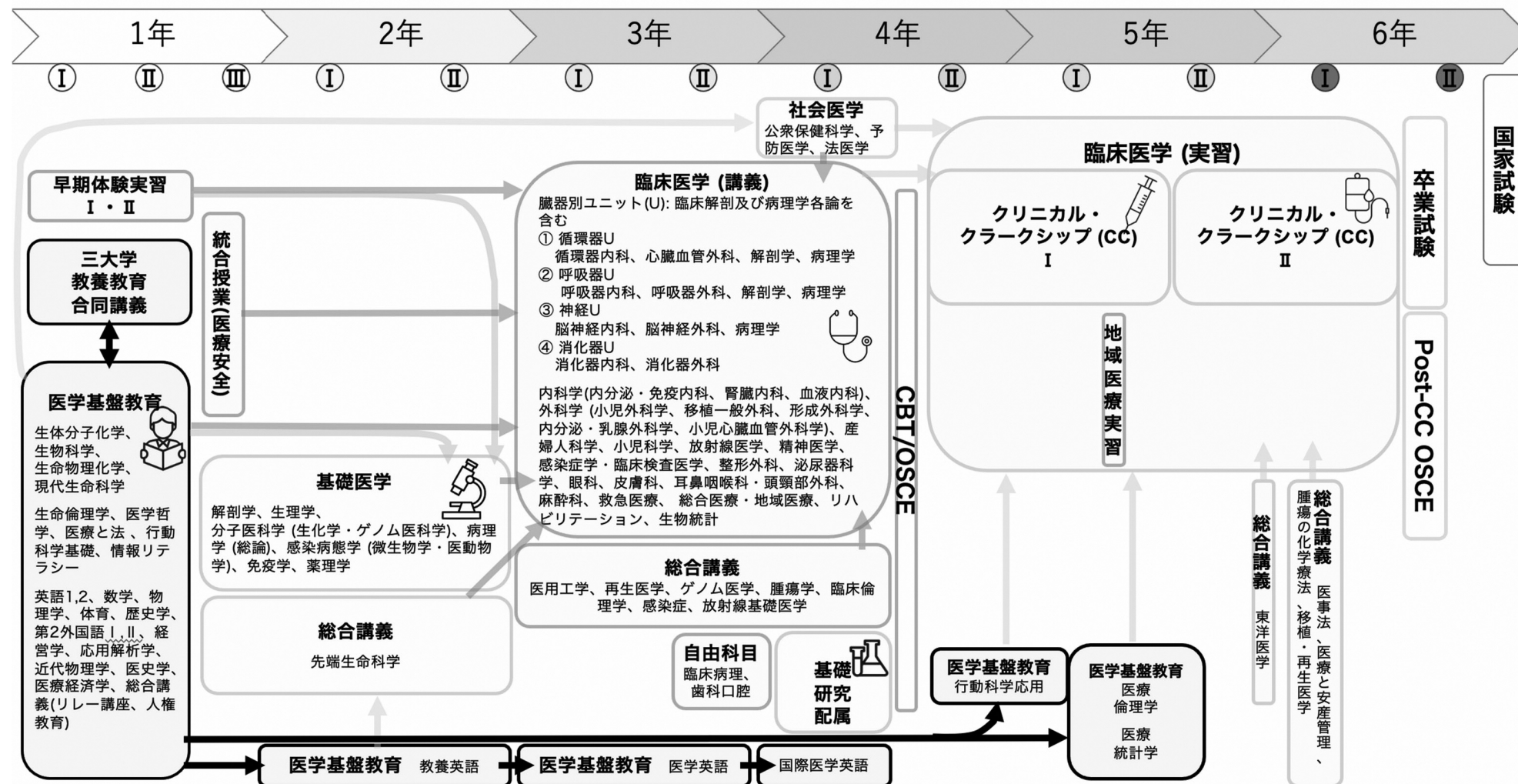
対面授業の質問については基本的に授業時間内または授業終了後に対応する。

遠隔授業の場合は授業内のチャット、または音声で対応する。

備考

授業の進捗状況により、内容が前後・変更する場合がある。

医学部医学科 カリキュラム・ツリー



カリキュラムマップ

(令和7年度入学生)

※1 DP ディプロマポリシー		豊かな人間性と全人的看護の展開		科学的思考に基づく判断能力を有した 主体的看護実践		保健福祉医療連携による看護実践		国際的な視野を有した看護実践					
4 年次	後期	研究方法论Ⅲ 看護の統合と実践Ⅰ（演習） 看護倫理Ⅱ								看護教育論 発達援助論 メンタルヘルス・マネジメント		国際保健・国際看護Ⅱ 国際看護英語	
		カウンセリング論											
	前期	地域看護学科目群 助産学科目群											
		研究方法论Ⅱ											
3 年次	後期	成人急性期看護学実習 成人慢性期看護学実習				精神看護学実習 小児看護学実習		母性看護学実習 老年看護学実習		在宅看護実習			
		看護の統合と実践Ⅱ（実習）											
	前期	地域看護学科目群 助産学科目群											
		研究方法论Ⅰ 看護マネジメント論・看護倫理Ⅰ				災害看護論 国際保健・国際看護Ⅰ		地域精神看護論 公衆衛生看護行政論		家族看護学 地域看護活動論Ⅰ・Ⅱ			
がん看護援助論 精神看護援助論Ⅱ		小児看護援助論Ⅱ 老年看護援助論Ⅱ		在宅看護援助論									
		疫学 家族社会学				社会福祉学 医療と経営							
		成長発達論											
2 年次	後期	成人急性期看護援助論Ⅱ 成人慢性期看護援助論Ⅱ				精神看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅰ		老年看護援助論Ⅰ 在宅看護学概論		健康教育論		国際とコミュニケーション （共同化科目※を含む） 科目群	
				治療援助技術論 治療援助技術演習 基礎看護学実習Ⅱ				公衆衛生学					
				保健統計学 看護と法律									
	前期	成人急性期看護援助論Ⅰ 成人慢性期看護援助論Ⅰ				精神看護学概論 小児看護学概論		老年看護学概論 地域看護学概論		母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
生命及び人間の尊厳 人間の理解 人間と環境Ⅰ・Ⅱ （共同化科目※を含む） 科目群				ヘルスアセスメント 看護展開論									
				薬理学 感染免疫学 病態・疾病論Ⅰ（成人急性期） 病態・疾病論Ⅱ（成人慢性期） 生殖健康論									
1 年次	後期	成人看護学概論				母性看護学概論		精神保健					
				生活援助技術論 生活援助技術演習 基礎看護学実習Ⅰ									
				人体構造機能論Ⅱ 病理学 人間看護工学									
	前期	看護学概論				感染管理学							
				人体構造機能論Ⅰ 生化学 栄養学									
※2 CP カリキュラムポリシー		高い倫理観の形成・人と環境への洞察力の育成				必要な知識・技術・態度を持った 主体的な看護実践能力育成				科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力育成			
		幅広い看護ニーズに対応できる 保健医療福祉との連携・調整能力育成				グローバルな視野での看護活動能力育成				社会変化に対応した研究の基礎的能力育成			
※3 AP アドミッションポリシー		豊かな人間性・倫理観 / 基礎学力 / 看護への関心 / 社会貢献											

※1 DP(ディプロマポリシー) ... 卒業認定・学位授与の方針

※2 CP(カリキュラムポリシー) ... 教育課程編成・実施の方針

※3 AP(アドミッションポリシー) ... 入学者受入れの方針

専門基礎科目

基礎・教養科目
選択科目

健康・疫病・障害の基礎
保健・福祉

専門科目

看護学の基本
看護学の展開
看護学の統合と発展

(4)医学部看護学科開講授業科目(令和7年度入学生用)

別表1 医学部看護学科教育課程(第3条関係)

区分		授業科目	単位数 (看護師)		単位数 (保健師)		単位数 (助産師)		履修年次・授業時間数								時間 数	ディプロマポリシー				卒業に必要な単位 数	
			必修 選択		必修 選択		必修 選択		1年次		2年次		3年次		4年次			① 的意 義が ある 人間 性で ある こと と人 間	② 能力 を有 する こと と人 間	③ 保 護 が 実 に な る こと と人 間	④ 保 護 が 実 に な る こと と人 間		
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎・ 教養科目	生命 及び 人間の 尊厳	生命倫理 ※3		2		2		2		2						30	○	○		○	看護師課程 16単位以上 必修8単位 + 選択8単位 以上		
		人権論	2		2		2		2							30	○	○					
		医療人類学		2		2		2	2							30	○						
		現代医療の人間観		2		2		2		2						30	○						
		哲学		2		2		2		2						30	○						
	人間の 理解	感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール)		1		1		1	1							15	○				※「生物学の人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する 保健師課程 16単位以上 必修13単位(看護師課程の必修科目に加えて、※2を必修とする) + 選択3単位 以上 ※「生物学の人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する		
		キャリア開発論	2		2		2		2							30	○	○	○				
		音楽		2		2		2	2							30	○						
		心の科学	2		2		2		2							30	○	○					
		発達心理学〇		2		2		2	2							30	○	○					
		健康スポーツ科学 ※2		2	2			2	2							30	○	○	○				
		健康スポーツ科学演習 ※2		1	1			1	1							30	○	○	○				
		西洋文学論		2		2		2	2							30	○						
		日本近現代文学		2		2		2	2							30	○						
		西洋文化論		2		2		2		2						30	○						
		美と芸術		2		2		2	2							30	○						
		京都の文学Ⅰ		2		2		2	2							30	○						
		京都の文学Ⅱ		2		2		2		2						30	○						
		こころの科学		2		2		2	2							30	○						
		認知心理学		2		2		2		2						30	○						
		現代社会と心		2		2		2		2						30	○						
		資料で京都 (リベラルアーツ・ゼミナール)		1		1		1	1							15	○						
		人間と 環境Ⅰ	教育の基礎		2		2		2	2							30	○	○	○			助産師課程 16単位以上 必修10単位(看護師課程の必修科目に加えて、※3を必修とする) + 選択6単位 以上 ※「生物学の人間学」「生命有機化学」「物理学」から1科目以上履修する
			法律と社会	2		2		2		2							30	○	○	○			
	生活と経済			2		2		2	2							30	○						
	医療と宗教			2		2		2	2							30	○	○					
	宗教と文化〇			2		2		2	2	2						30	○			○			
	医療と社会			2		2		2	2							30	○						
	比較宗教学			2		2		2	2							30	○						
	日本史			2		2		2		2						30	○						
	京都の文化と文化財			2		2		2	2		2					30	○						
	東西文化交流史			2		2		2	2	2						30	○						
	アジアの歴史と文化			2		2		2	2							30	○						
	ヨーロッパの歴史と文化			2		2		2		2						30	○						
	技術の人間学			2		2		2		2						30	○						
	日本近代精神史			2		2		2		2						30	○						
	京の意匠			2		2		2		2						30	○						
	京都の歴史Ⅰ			2		2		2	2							30	○						
	京都の歴史Ⅱ			2		2		2		2						30	○						
	英語で京都			2		2		2						2		30	○						
	政治学			2		2		2		2						30	○						
	国際政治			2		2		2		2						30	○						
	経済学入門			2		2		2		2						30	○						
	現代教育論			2		2		2	2							30	○						
	京の産業技術史			2		2		2	2							30	○						
	社会学Ⅰ			2		2		2	2							30	○						
	社会学Ⅱ			2		2		2		2						30	○						
	現代社会とジェンダー			2		2		2	2							30	○						
	現代京都論			2		2		2	2							30	○						
	京都学講座(人間と社会)			2		2		2	2							30	○						
	科学史Ⅰ			1		1		1	1							15	○						
	科学史Ⅱ			1		1		1	1							15	○						
	環境問題と持続可能な社会			2		2		2	2							30	○						
	環境と法			2		2		2		2						30	○						
	法学			2		2		2	2							30	○						
	京都の防災と府民		2		2		2		2						30	○							
	京都の農林業		2		2		2		2						30	○							

(4) 医学部看護学科開講授業科目(令和7年度入学生用)

別表1 医学部看護学科教育課程(第3条関係)

区分	授業科目	単位数 (看護師)		単位数 (保健師)		単位数 (助産師)		履修年次・授業時間数								時間 数	ディプロマポリシー				卒業に必要な単位 数
								1年次		2年次		3年次		4年次			① 的な 看護 を人 間関 性で 備え るこ とと 全 人	② に能 力科 学を 育的 考を 基 づく こと と 創 造的 断	③ 国 際 的 な 観 点 を も と に 人 間 関 性 を 考 え る こ と と 全 人	④ を 国 際 的 な 観 点 を も と に 人 間 関 性 を 考 え る こ と と 全 人	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
基礎・ 教養科目	京都の自然		2		2		2	2								30	○				
	食ブランド論		2		2		2	2								30	○				
	現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2		2							30	○				
	社会科学の学び方 (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2		2							30	○				
	世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)		1		1		1	1								15	○				
	現代イスラム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)		1		1		1	1								15	○				
	時事問題で学ぶファシリテーション (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2	2								30	○				
	マーケティング入門 (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2							2		30	○				
	プレゼンテーション力とは (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2	2								30	○				
	生物学的人間学Ⅰ		2		2		2	2								30	○	○		○	
	生命有機化学		2		2		2		2							30	○	○			
	物理学		2		2		2		2							30	○	○			
	情報科学 ※2		2	2			2	2								30		○			
	人と自然と数学Ⅰ		1		1		1		1							15	○				
	人と自然と数学Ⅱ		1		1		1		1							15	○				
	人と自然と数学Ⅲ (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2		2							30	○				
	物理学Ⅰ		2		2		2	2								30	○				
	化学概論Ⅰ		2		2		2	2								30	○				
	化学概論Ⅱ		2		2		2		2							30	○				
	生物学概論Ⅰ		2		2		2	2								30	○				
	生物学概論Ⅱ		2		2		2		2							30	○				
	エネルギー科学		2		2		2	2								30	○				
	キャンパスヘルス概論		2		2		2	2								30	○				
	食と健康の科学		2		2		2	2								30	○				
	現代科学と倫理		2		2		2		2							30	○				
	意外と知らない植物の世界		2		2		2		2							30	○				
	生命科学講話		2		2		2	2								30	○				
	医学概論Ⅰ		1		1		1		1							15	○				
	医学概論Ⅱ		1		1		1		1							15	○				
	光と色彩のサイエンス		2		2		2	2								30	○				
	製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2		2							30	○				
	レーザーで測る、創る、楽しむ (リベラルアーツ・ゼミナール)		2		2		2	2								30	○				
	英語ⅠA		1		1		1		1							30	○				○
	英語ⅠB		1		1		1			1						30	○				○
	英語ⅡA			1		1		1			1					30	○				○
	英語ⅡB			1		1		1				1				30	○				○
	中国語Ⅰ			1		1		1	1							30	○				○
	中国語Ⅱ			1		1		1		1						30	○				○
	ドイツ語Ⅰ			1		1		1	1							30	○				○
	ドイツ語Ⅱ			1		1		1		1						30	○				○
	フランス語Ⅰ(欠講)			1		1		1	1							30					
	フランス語Ⅱ(欠講)			1		1		1		1						30					
	国際情勢の理解			2		2		2			2					30	○		○		○
	英会話Ⅰ			1		1		1			1					30	○	○		○	
	英会話Ⅱ			1		1		1				1				30	○	○		○	
	ラテン語			2		2		2		2						30	○				
	現代社会に学ぶ問う力・書く力 (リベラルアーツ・ゼミナール)			2		2		2	2							30	○				
	フランス語圏の文化とジャポニズム			2		2		2						2		30	○				
	映画で学ぶ英語と文化			2		2		2							2	30	○				
	映画で学ぶドイツ語と文化			2		2		2							2	30	○				
	基礎・教養科目合計		10	181	15	176	12	179	94	81	2	4	0	0	6	4	3060				

網掛けの科目は共同化科目のため購読は共同化施設で行う。

○本学科提供の共同化科目

1科目以上履修

4単位以上
必修2単位
土
選択2単位
以上

(4) 医学部看護学科開講授業科目(令和7年度入学生用)

別表1 医学部看護学科教育課程(第3条関係)

区分	授業科目	単位数 (看護師)		単位数 (保健師)		単位数 (助産師)		履修年次・授業時間数								時間 数	ディプロマポリシー				卒業に必要な単位 数
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次			① 必要な 看護を人 展開でき ることを 備えるこ と	② 能力科 看護を学 び、実 践するこ とに基づ き、判断 的・批判 的思考を 養うこと ができる こと	③ 健康・医 療・福祉 の連携を 図ること ができる こと	④ 国際的 な視野で 看護を考 えらるこ と	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門基礎科目	健康・疾病・障害の基礎	人体構造機能論Ⅰ	1		1		1		1							30	○	●			
		人体構造機能論Ⅱ	1		1		1			1						30	○	○			
		生化学	1		1		1		1							30	○	●	○		
		栄養学	1		1		1		1							30	○	●	●	○	
		薬理学	1		1		1			1						30	○	●			
		病理学	1		1		1			1						30	○	○			○
		感染免疫学	1		1		1				1					30	●	○	○		
		病態・疾病論Ⅰ(成人急性期)	1		1		1				1					30	●	○	○		
		病態・疾病論Ⅱ(成人慢性期)	1		1		1				1					30	●	○	○		
		病態・疾病論Ⅲ(精神・運動器)	1		1		1					1				30	●	○	○		
		病態・疾病論Ⅳ(臨床腫瘍)	1		1		1					1				30	●	○	○		
		病態・疾病論Ⅴ(小児)	1		1		1					1				30	○	○	○		
		病態・疾病論Ⅵ(老年)	1		1		1					1				30	●	○	○		
		成長発達論	1		1		1						1			30	○	●	○		
	生殖健康論	1		1		1					1				30		●	○			
	臨床遺伝学	1		1		1					1				30	●	○	○			
	人間看護工学		1		1		1			1					30	○	○				
	保健・福祉	疫学	2		2		2					2				30	○	●	○		
		公衆衛生学	1		1		1				1					15	○		●	○	
		保健統計学	2		2		2				2					30		●	○		
		社会福祉学	2		2		2					2				30	○		●		
		カウンセリング論		1		1		1						1		15	●				
		看護と法律	1		1		1				1					30	●		○		
	家族社会学	※2、※3		1		1		1				1			15	○	●	○	○		
	医療と経営	※2		1		1			1				1			15	○	○	●		
専門基礎科目合計		24	4	26	2	25	3	3	3	5	9	7			690					25単位	
専門科目	看護学の基本	看護学概論	2		2		2		2							30	●		○		
		感染管理学	1		1		1		1							15	○	●			
		生活援助技術論	1		1		1			1						15	○	○	●		
		生活援助技術演習	2		2		2			2						60	○	○	○		
		治療援助技術論	1		1		1					1				15	○	○	○		
		治療援助技術演習	1		1		1					1				30	○	○	○		
		看護展開論	2		2		2				2					30	○	○	○		
		ヘルスアセスメント	1		1		1				1					30	○	○	○		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1		1			1						45	○	○	○	○	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2		2					2				90	○	○	○	○	
	計	14		14		14		3	4	3	4				360						
	看護学の展開（理論と実践）	成人看護学概論	1		1		1			1						15	○	○	○		
		成人急性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1					30	●	○	○		
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1				30	○	○	○		
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	1		1		1				1					30	○	○	○		
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		1		1					1				30	○	○	○		
		成人急性期看護学実習	3		3		3						3			135	○	○	○		
		成人慢性期看護学実習	3		3		3						3			135	○	○	○		
		がん看護論	1		1		1					1				15	●	○	○		
		精神保健	1		1		1			1						15	●	○	○	○	
		精神看護学概論	1		1		1				1					15	○	○	○		
		精神看護援助論Ⅰ	1		1		1				1					15	○	○	○		
		精神看護援助論Ⅱ	1		1		1					1				30	○	○	○		
		精神看護学実習	3		3		3						3			135	○	○	○	○	
		小児看護学概論	1		1		1				1					15	●	○	○		
小児看護援助論Ⅰ		2		2		2					2				30	○	○	○			
小児看護援助論Ⅱ	1		1		1						1			30	●	○	○				
小児看護学実習	3		3		3						3			135	○	○	○	○			
母性看護学概論	1		1		1			1						15	●		○	○			
母性看護援助論Ⅰ	1		1		1				1					15	○	○	○				
母性看護援助論Ⅱ	1		1		1				1					15	○	○	○				
母性看護援助論Ⅲ	1		1		1					1				30	○	○	○				
母性看護学実習	2		2		2						2			90	○	○	○	○			
老年看護学概論	1		1		1				1					15	●	○	○				

(4) 医学部看護学科開講授業科目(令和7年度入学生用)

別表1 医学部看護学科教育課程(第3条関係)

区分	授業科目	単位数 (看護師)		単位数 (保健師)		単位数 (助産師)		履修年次・授業時間数								時間 数	ディプロマポリシー				卒業に必要な単位 数		
								1年次		2年次		3年次		4年次			① 的 な 観 を 人 間 性 で き る こ と と 全 人	② に 能 な 科 を 育 的 実 践 を 主 に 基 づ き 創 造 的 断	③ 国 際 的 保 健 ・ 福 祉 の 連 携 と を	④ を 国 際 的 な 視 野 で 健 康 を 考 え ら			
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
専門科目	老年看護援助論Ⅰ	2		2		2				2						30	○	●	○				
	老年看護援助論Ⅱ	1		1		1					1					30	●	○	○				
	老年看護学実習	3		3		3							3			135	○	●	○				
	在宅看護学概論	2		2		2				2						30	○	●	○				
	在宅看護援助論	1		1		1					1					30	○	●	○				
	在宅看護実習	1		1		1							1			45	○	●	○				
	地域看護学概論	2		2		2				2						30	●	○	○	○			
	健康教育論	1		1		1					1					15	○	●	○				
	計	46		46		46		3	10	10	5	18				1365							
	看護学 の 統 合 と 発 展	研究方法論Ⅰ	1		1		1					1					30	○	●				
		研究方法論Ⅱ	1		1		1							1			30	○	●				
		研究方法論Ⅲ	2		2		2							2			60	○	●				
		看護マネジメント論・看護管理Ⅰ	2		2		2					2					30		●	○	○		
		国際看護・国際保健Ⅰ	1		1		1					1					15	○		○	●		
		国際看護・国際保健Ⅱ		1		1		1							1		15	○		○	●		
		国際看護英語		1		1		1							1		15	○			●		
		看護教育論		1		1		1							1		15		○	●			
		地域精神看護論 ※2		1		1		1					1				15	○	○	●			
		発達援助論		1		1		1							1		15	●	○	○	○		
		看護倫理Ⅱ		1		1		1							1		15	●	○	○	○	○	
		災害看護論	1		1		1					1					15			●	○		
		メンタルヘルス・マネジメント		1		1		1							1		15	●					
		看護の統合と実践Ⅰ(演習) ※1		1		1		1							1		30	○	●				
		看護の統合と実践Ⅱ(実習)	2		2		2								2		90	○		●			
		公衆衛生看護行政論 ※2		1		1		1					1				15	○	○	●			
	家族看護学 ※2、※3		1		1		1					1				15	●		○				
	地域看護活動論Ⅰ ※2		1		1		1					1				15	○	○	●				
	地域看護活動論Ⅱ ※2		1		1		1					1				15	○	○	●				
	小計	10	12	15	7	11	11					10	3	9		465					74単位		
	(履修許可された学生のみが履修する)	地域看護学	地域看護診断学Ⅰ			2						2					30	○	●	○			
			地域看護診断学Ⅱ			2						2					30	○	●	○			
			地域保健活動展開論 ※3			1		1							1		15	●	○	○			
			地域看護学演習			2							2				60	○	●	○			
			地域看護学実習			5									5		225	○	●	○			
		小計			12		1					4	2	5	1	360							
		助産学	助産学基礎理論				1					1					15	●		○	○		
			親役割援助論				1								1		15	●		○			
			助産マネジメント論				2					2					30	●	○	○			
			ウィメンズヘルス論				1					1					15	●	○	○			
			周産期病態生理学Ⅰ				1					1					30		●	○			
			周産期病態生理学Ⅱ				1						1				30	○	●	○			
			地域母子保健論 ※2			1		1				1					15	○	○	●	○		
			助産診断学Ⅰ				1					1					15	○	●	○			
			助産診断学Ⅱ				1					1					15	○	●	○			
			助産診断学Ⅲ				1						1				15	○	●	○			
			助産診断学Ⅳ				1						1				15	○	●	○			
			助産技術学Ⅰ				1							1			30	○	●	○			
			助産技術学Ⅱ				1								1		30	○	●	○			
			助産学実習Ⅰ				2								2		90	○	●	○			
			助産学実習Ⅱ				8								8		360	○	●	○			
			助産学実習Ⅲ				1								1		45	○	○	●			
			小計					25					8	4	3	10	765						
	専門科目合計		70	12	87	7	97	11	3	7	13	14	27	27	8	20	3315						
全科目合計		104	197	128	185	134	193	191		47		34		27		14		24		7065		看護師課程は全ての区分から9単位自由選択 看護師課程 128単位以上 保健師課程 134単位以上 助産師課程 142単位以上	
		301		313		327																	

※1 看護師国家試験のみの受験資格を取得者は選択必修である。

数理・データサイエンス・AI 教育検討委員会運営要項

令和8年5月1日

(設置)

第1条 この要項は、京都府立医科大学医学部教育委員会規程（京都府立医科大学規程第10号）第4条第1項第6号に規定する重要事項として、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するために設置された、数理・データサイエンス・AI 教育検討委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は次の各号に掲げる委員を以て組織する。

- (1) 教育センター長
- (2) 学生部長
- (3) 医学科教員 若干名
- (4) 看護学科教員 若干名
- (5) その他委員長が必要と認める者 若干名

2 委員長は前項第1号の委員を以て充てる。

3 第1項第3号から第5号の者は学長が指名する。

3 委員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

5 委員長に必要な場合は、委員長は委員以外の者の出席を求めて、意見を聴くことができる。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育の計画・改善に関する事項
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育の自己点検・評価に関する事項
- (3) その他数理・データサイエンス・AI 教育に関し必要な事項

(事務)

第4条 委員会に関する事務は、教育支援課が処理する。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、令和8年5月1日から施行する。

2 この要項の定めるところにより最初に任じられた委員の任期は、第2条第3項の規定にかかわらず、令和11年3月31日までとする。

数理・データサイエンス・AI 教育検討委員会運営要項

令和8年5月1日

(設置)

第1条 この要項は、京都府立医科大学医学部教育委員会規程（京都府立医科大学規程第10号）第4条第1項第6号に規定する重要事項として、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するために設置された、数理・データサイエンス・AI 教育検討委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は次の各号に掲げる委員を以て組織する。

- (1) 教育センター長
- (2) 学生部長
- (3) 医学科教員 若干名
- (4) 看護学科教員 若干名
- (5) その他委員長が必要と認める者 若干名

2 委員長は前項第1号の委員を以て充てる。

3 第1項第3号から第5号の者は学長が指名する。

3 委員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

5 委員長に必要な場合は、委員長は委員以外の者の出席を求めて、意見を聴くことができる。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育の計画・改善に関する事項
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育の自己点検・評価に関する事項
- (3) その他数理・データサイエンス・AI 教育に関し必要な事項

(事務)

第4条 委員会に関する事務は、教育支援課が処理する。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、令和8年5月1日から施行する。

2 この要項の定めるところにより最初に任じられた委員の任期は、第2条第3項の規定にかかわらず、令和11年3月31日までとする。

大学等名	京都府公立大学法人 京都府立医科大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	京都府立医科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和8年度

取組概要

プログラムの目的

将来の医師および看護師として必要な数理・データサイエンス・AIリテラシーを修得し、データに基づく意思決定およびAIを適切に活用できる基礎能力を育成する。

身に付けられる能力

- ・データの理解・収集・可視化および基礎的解析能力
- ・統計的思考に基づく問題解決力
- ・AIの基本原理の理解と適切な利活用能力
- ・倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する理解
- ・多職種の視点を踏まえた意思決定能力

科目構成および修了要件

【医学科】情報リテラシー・医療統計学・生命倫理学（※看護学科と合同）・生物統計学・数学・応用解析学・医療倫理学
修了要件：上記7科目の中から、必須1科目を履修の上、選択必須科目から1科目以上を履修し、合計4単位以上を修得

【看護学科】情報科学・生命倫理（※医学科と合同）
修了要件：上記2科目（計4単位）を修得

数理・データサイエンス・AI教育の
PDCAサイクル実施体制

先導的で独自の工夫・特色

- ・医学科・看護学科に共通するリテラシーレベル教育プログラムとして体系的に設計
- ・生命倫理科目を合同開講し、医療における倫理的課題を多職種の視点から考察する機会を提供
- ・医学科では、医療AI活用事例を用いた教育の実施

